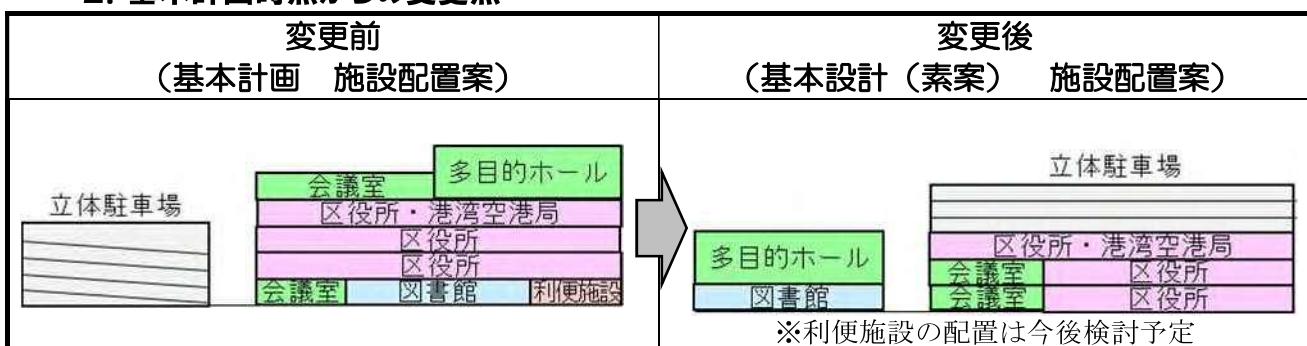


門司港地域複合公共施設 基本設計の進捗について(報告)

1. これまでの経緯

平成 28 年 2 月	公共施設マネジメント実行計画の策定
平成 30 年度	公共事業評価 事前評価 1
平成 31 年 3 月	複合公共施設基本計画の策定
令和 元年 7 月～	基本設計業務に係る簡易プロポーザル
令和 元年 8 月	最優秀者の決定（石本建築事務所、海渡設計 JV）
令和 元年 10 月	基本設計（素案）に着手

2. 基本計画時点からの変更点



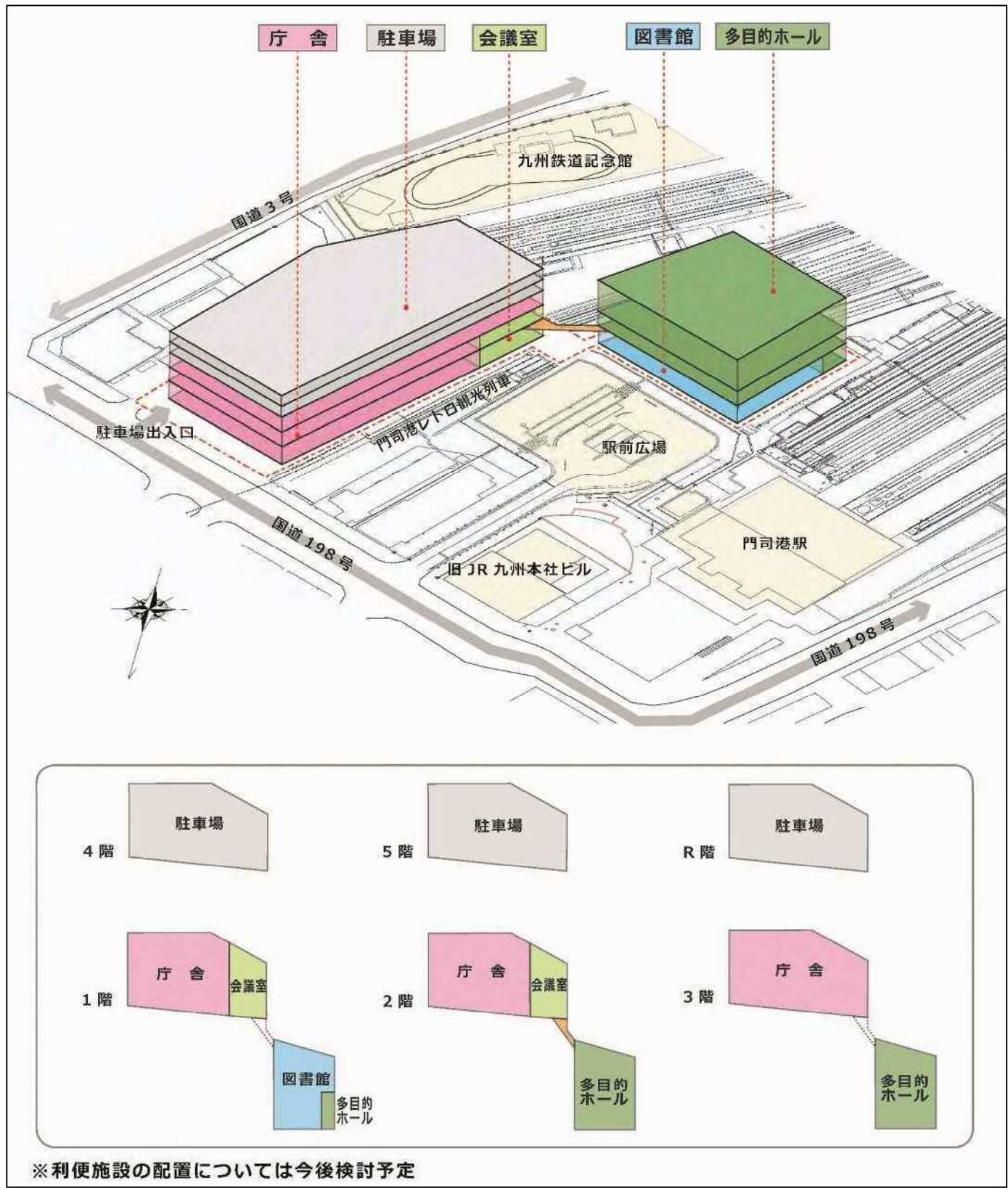
3. 変更点のメリット

- 門司港駅から市民の利用度が高い施設を連続させる案となっているため、利用者の利便性がより向上するとともに、門司港の賑わいづくりへの貢献が期待できる。
- 駐車場への車両動線と公共施設や駅利用者の歩行動線との交差が少ない。
- 立体駐車場と区役所が同じ建物となり、駐車場から区役所へのアクセスが改善された。
- 景観面での課題となっていた立体駐車場を含め全体的に、景観への配慮がなされている。

4. 今後の進め方

令和 2 年 3 月～	門司港地域複合公共施設基本設計市民ワークショップ
令和 2 年 7 月	基本設計の完了
令和 2 年度	公共事業評価 事前評価 2
令和 3 年度～	実施設計、工事
令和 5 年度末	完成

門司港地域複合公共施設 基本設計(素案)



門司港地域複合公共施設整備事業 基本計画【概要版】

1. 事業の目的・概要

- ・老朽化が進み近い将来代替えが必要な公共施設を門司港駅付近に集約し、複合化・多機能化することで、施設整備費、維持管理費、運営費を削減する。また、利便性の向上及び市民サービスの効率化を図るとともに、市民利用施設や図書館の公共施設を活かし、地域の活性化に寄与する。
- ・交通利便性の高い門司港駅付近に公共施設を集約することで、区内各地からのアクセス便利性を高める。

- ・ホールや会議室、図書館等の文化施設を一体的に整備することで、より活発な活動を支える環境づくりを進めるとともに、周辺地域の活性化や賑わいの創出を図る。
移行時期は、地域活性化と利田山駅周辺をアセットとして、4年間の時をかけて、

事業概要】

2. チャリティ口済スクエア更配置計画（開司選出地）

【集約施設の位置】

- 門司市民会館
1957 年度建築（昭 61 年）
- 門司図書館
1963 年度建築（昭 55 年）
- 門司生涯学習センター
1980 年度建築（昭 38 年）
- 門司区役所別館
1970 年度建築（昭 48 年）
- 旧国際友好記念図書館
1944 年度建築（昭 24 年）
- 桜町商店街
- 門司港駅
- (整備予定地)
- 港湾空港局行蔵
1955 年度建築（昭 53 年）
- 門司区役所車庫
1964 年度建築（昭 54 年）
- 門司区役所行蔵
1930 年度建築（昭 88 年）
- 門司労働青少年ホーム
1975 年度建築（昭 43 年）

この地図は、北九州市都市計画基本図 DM データを使用したものである。

【公共旗設集約化の封鎖施設延床面積の変化】

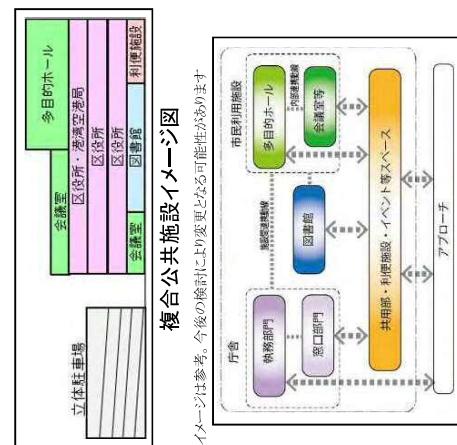
現況施設		現状		計画	
市民 利用施設	門司市民会館	3,700 m ²			・多目的ホール
	門司生涯学習センター	3,000 m ²	8,500 m ²	<u>3,600 m²</u>	・座席数見直し(800→500)
図書館	門司図書館	1,800 m ²			・会議室機能の見直し
	日国際友好記念図書館**	1,000 m ²	1,800 m ²	<u>1,600 m²</u>	・施設を1施設
庁舎	門司区役所	800 m ²			
	港湾空港局庁舎	7,100 m ²	10,600 m ²	<u>8,800 m²</u>	・会議室等の共用利用
		3,500 m ²	20,900 m ²	<u>14,000 m²</u>	
計					そその他施設：有料駐車場(34台)、利便施設(200 m ²)

【対象施設の現状】

施設名・建築年(延床面積)

施設名・建築年度(延床面積)	現状・課題
市民利用施設 門司市民会館 ・1957年(3,700m ²)	○施設基準を満たしていない ○建物が古く、設備の劣化が進んでいる ○ハリアフリー対応が十分でない ○座席間のピッチが狭く、2階席の座席・階段の勾配が急 ○付属駐車場が狭い ○会議室や和室など類似した受付を持つ部屋が複数ある ○いずれの部屋も整備率が低い ○付属駐車場が狭い
門司生涯学習センター ・1980年(3,000m ²)	○会議室や和室など類似した受付を持つ部屋が複数ある ○いずれの部屋も整備率が低い ○平成31年度未定
門司勤労青少年ホーム ・1975年(1,800m ²)	○会議室や和室など類似した受付を持つ部屋が複数ある ○いずれの部屋も整備率が低い ○平成31年度未定
図書館 ・1963年(1,000m ²) 旧国際友好記念図書館 ・1994年(800m ²)	○フロアが3層に分れており使い難い ○付属駐車場が狭い ○観光施設・交流拠点（大連友好記念館）として活用 ○図書館は平成29年度未開館
門司区役所 ・1930年(5,750m ²)	・区役所本館 ○登録有形文化財（建造物） ○建物が古く、設備の劣化が進んでいます ○課題> △
門司区役所東棟 ・1964年(500m ²)	・保健福祉業務の一部で使用 ○バリアフリー対応が十分でない ○市民の待合スペースが不足
門司区役所別館 ・1970年(850m ²)	・1階は舗装市民センター、2階 は区役所別館、上層階は住宅 ○駅や市街地から離れておりアクセス が悪い
港湾空港局庁舎 ・1965年(3,500m ²)	○面積基準を満たしていない ○建築後50年経過し、今後修繕コストが増大

100



「アーティストのためのアートセミナー」 第二回「アーティストとしての自己表現」

The diagram illustrates the integrated service model of the City Library. At the top center is the 'Multi-Service Hall' (総合サービスホール). Below it, a dashed box labeled 'Information Services' (情報サービス) contains the 'Information Desk' (情報窓口), 'Reference Room' (参考室), and 'Event Hall' (イベントホール). To the left, a dashed box labeled 'Cultural Services' (文化サービス) contains the 'Cultural Activity Department' (文化活動部門) and 'Reading Room' (読書室). To the right, a dashed box labeled 'Public Services' (市民サービス) contains the 'Information Desk' (情報窓口), 'Reading Room' (読書室), and 'Event Hall' (イベントホール). Arrows indicate bidirectional communication between the central hall and each of these service areas.

複合公共施設整備予定箇所

建物上の配管構成を直接示すものではありません
内部連動線、施設間連動線は、機能間の連携
や運営上の車両動線

4. 複合公共施設の整備基本方針と整備計画

【基本方針】 門司港レトロの玄関口に誇れる「みんなの施設」

目標 1 : 市民が誇りを持って利用し、育てていく施設づくり
(機能・運営システム・連携のモデル)

- 施設や機能の複合化が、新たに文化的な価値を生み出すきっかけとなり、
- 市民活動の豊かさの向上に寄与していくこと
- 市民利用施設、図書館、行政機関が連携していく可能性を示していくこと

目標 2 : 市民ちからで創りだす施設づくり
(周辺環境、景観等のモデル)

- 市民の日常動線と観光客等の回遊動線が交差する場所に位置する立地特性に照らして、複合公共施設整備の効果を周辺に波及させ、新たな流れを誘導していくこと

目標 3 : これからのお施設が創りだす施設づくり
(建物の性能、ライフサイクル等のモデル)

- 公共交通マネジメントのモニタリングシステムなど複合公共施設が要素にわたって良好なレベルで使い慣れることができるよう、先導的な取り組みを行っていくこと

【配慮事項】

能力ある脳のいの創出

- ◎ おける交流【日常】
・地域拠点の充実
・商店街や周辺施設とのサービスを含めた連携
- ・多様な世代が集い、出会い、交流する場の形成
・交通結節機能の充実、強化による公共交通利便性の向上
・広域観光拠点の形成
・門司港レトロとの連携
・回遊動線の確保、向上
・交流人口の増加
- ・将来需要の変化に対する柔軟性の確保
・潜在需要への対応

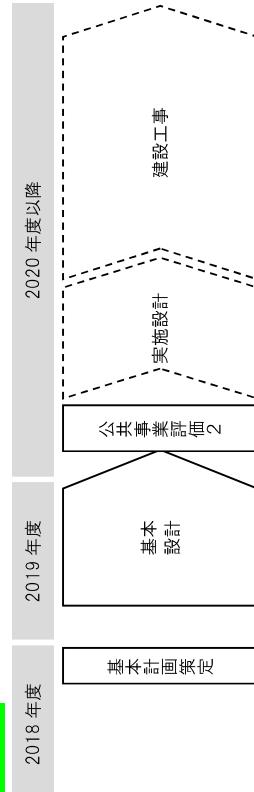
基本的な性能の確実

- ◎ 安全、安心、快適・平時
・ユニバーサルデザイン
・パリアフリー
・無駄のない空間構成
・使いやすい、利用者目線の施設
・利便性が高く、機能的な
サービスの提供
・効率的な執務空間
◎ 防災拠点【非常時】
・基本性能の確保
・災害時における対応
・事業継続

持続可能な施設の構築

- ◎ 環境負荷低減
・CASBE 北九州
・電気、水、ガス、熱、雨水、廃棄物等の循環型社会の実現
・最適重点整備地区に相応しい風格と落ち着きのあるデザイン
・夜景景観への配慮
・周辺景観、施設との調和
・将来への対応
- ・財政負担の軽減
・コンパクトシティの実現
・将来的な変化に対する柔軟性の確保
・潜在需要への対応

6. スケジュール



5. 各施設の整備基本方針及び整備内容

門司港地域複合公共施設(公共施設: 14,000m²、利便施設 200m²)

市民利用施設(3,600m²)

多目的ホール (1,700m ²)	◇市民・団体の活動拠点として、地域拠点施設に位置づけ、施設規模に応じて地域の文化行事や個人の演奏会などに使用
◇ホールは、舞台設備等を備えた文化ホール仕様	◇ホールは、舞台設備等を備えた文化ホールとして、会議、文化活動、スポーツ等にも活用
・座席数: 500 座程度	・大会議室: 100~300 人規模の講演会用(面積規範: 300 m ²)
・自動式運営席を採用したアーチナ利用	・小会議室: 50~80 人程度の会議室(面積規範: 20~50 m ²)
・楽屋は、小会議室(会議室、和室)を兼用	・音楽室、調理室、浴室、美術工芸室1室、音楽室1室、各部は多目的な利用に対応
・災害時等における柔軟な利用・運用への対応	・災害時における柔軟な利用・運用への対応

図書館(1,600m²)

△地区図書館として、区民を中心とした貸出・予約・読書案内・簡易なレファレンスなどのサービス
や図書の充実を図る
△国際交流に関する図書、地域特性に関する図書、情報の充実を図る
△静かに本を読める空間と、図書館の利用者が集える空間を確保

【整備内容】

・なかやりやすいサービスカウンターの設置
・読み聞かせコーナー、読み書き、読書会などに柔軟に対応できるブランチ
・読み聞かせ専用一般蔵書、テーマ別蔵書、特集コーナーなどを効率的、柔軟に対応できる配架システム
・静かに読書できるスペースやリフレッシュコーナーの設置、通信環境 (WiFi) 等の完備
△会員登録システム

行舎(8,800m²) (区役所 6,800m²、港湾庁舎 2,000m²)

△まちづくりの推進や地域コミュニティ活動への支援、保健福祉や子育てに關する相談、災害時の防災拠点など、住民に身近で多様な役割を果たす
△来訪者の利便性に配慮し、窓口受付を果たす
△港湾行政の役割を果たす
△会員登録システム
△わかりやすい窓口案内を可能とするエントランス、待合スペースの確保
・区役所手帳のワントップサービスの実施
・市民ニーズや災害時業務の柔軟性のある空間計画
・防災拠点としての施設度・性能の確保
・防災時における柔軟的な機能の運用化

別便施設(200m²)

△施設利用者の利便性を向上、また、公共交通利用者や観光客などが気軽に立ち寄れる施設
付属駐車場(約340台)
△施設利用者や公用車のほか、観光客など地域の駐車需要や交通乗継にも対応できる立体駐車場として整備
△駅前広場に隣接した敷地に独立した立体駐車場として配置

△門司港駅に隣接した位置にあるなどの立地状況を踏まえ、景観・デザインを重要な要素として検討
・駅前広場の首筋断の安全性確保に留意
・景観・デザインへの配慮
・行きまでの動線に脇道を設置するなど良好なアクセス確保への配慮